

## 頬骨陥没骨折整復手術後の鍼灸治療の症例

平成 26 年 7 月 24 日  
港支部 天崎 正典

本症例は、自転車転倒後、顔面からコンクリート製花壇のコーナーに直撃をし、整復手術後の違和感で、来院した患者様です。

症例：63 歳女性

初診：平成 24 年 7 月 23 日

主訴：左顔面の違和感

現病歴：平成 24 年 1 月 13 日に自転車で走っていた最中、水たまりでスリップし転倒した。この際、受け身が取れず、コンクリート製花壇のコーナーに左頬から直撃する形で倒れたため、すぐに、整形外科を受診し、目が二重に見えるため、脳神経外科を紹介され、MRI による精密検査診察の結果、脳には影響問題がないと診断された。左側上顎骨の陥没骨折のため、形成外科を再度、紹介された。すぐには、日程の関係で手術ができず、2 月 3 日に手術を受けた。術後 3 カ月は、顔面の腫れ、シビレ、疼痛、歯茎の無感覚が辛かった。このため、歯を磨くこともできない状態である。

退院後は、顔面の違和感（言葉に表現できない感覚）があり、病院でビタミン剤を処方され服用しているが、効果は現れていない感じがする。今の症状は、左顔面の違和感（なんと、表現してよいかわからない感覚）、左鼻翼と頬の境目・左唇のピリピリとした感覚（疼痛域部位図参照）、左鼻腔のつまり感覚、左上顎歯茎の無感覚が辛い。病院で薬を処方されたが、あまり、効果が現れていない感じである。

既往歴：特記すべきことなし

家族歴：特記すべきことなし

診察所見：顔面の左右差を比較、視診状態では、特に左右差を感じない。静止時・額のしわ寄せ・軽くの閉眼・強くの閉眼・片目つぶり・鼻根のしわ寄せ・頬を膨らませる・イーと歯を見せる・口笛運動・口をへの字に曲げる、これらに関しては、左右差を認められない。三叉神経第 2 枝領域の感覚に左右差あり、口腔内左上顎第 1～6 歯感覚障害を認める、特に 3・4 歯の感覚障害を認める。開口障害、流涎、言葉の不明瞭化、噛み合わせの異常は認めない。

対応：皆様、痛めている場所に関して、意識過剰過敏になりすぎる傾向にあります。ですので、他のことや、好きなことに意識を向くようにしてください。おそらく、私も含め、無理だと思いますが、気にしないようにいたしましょう。

治療経過：

第 1 回目（7 月 23 日）：左側の 翳風・頬車・四白・迎香・承泣・素りょう・水溝・地倉・上関・大迎・頭維・絲竹空・攢竹・陽白・右合谷・曲池・左外関に寸 3-1 番（16 号 40 ミリ）にて、5 mm 刺入置鍼 15 分

治療後、全体的に楽になった感じはあるが、歯茎の感覚の変化は認めない。

第 2 回目（7 月 26 日-4 日目）：治療は前回同様に加えて寸 6-3 番（20 号 50 mm）にて、足三里に灸頭鍼、左上 3・4 歯歯茎に寸 3-3 番（20 号 40 ミリ）にて 3 ミリ刺入、解谿・衝陽・内庭・二間に寸 3-1 番（16 号 40 ミリ）にて、5 mm 刺入、置鍼 15 分

第 3 回目（7 月 30 日-8 日目）：歯のカチカチした感覚は、左右同じ感覚になった。治療は前回同様。

治療後は、左鼻の鼻腔のつまり、左鼻翼付近を指で触ると、ピリピリ感、つっぱり感がある。第二枝エリアのしびれ、つっぱり感がある

第 4 回目（8 月 2 日-11 日目）：本日は、全体的に良くなっているが、特に、鼻翼のピリ

ピリ感が強い。治療は、前回同様に加え、右側臥位にて、翳風穴に寸6-3番（20号50mm）灸頭針・赤外線10分を加えた。

第5回目（8月6日-15日目）：第1・2・3枝の境目がわかるようになった。治療は、前回同様。

第7回目（8月20日-25日目）：全体的には良くなっているが、左頬部分に嫌な感じが残っている。左鼻翼の感覚はよくなっているが、左上唇のピリピリ感がある。歯茎の感覚は、以前は、何もしていない時も嫌な感覚があったが、今は、物を噛むときに感じるようになったと思う。

治療は、前回同様より、翳風穴に寸6-3番灸頭針・赤外線10分をやめ、口腔内より巨りょう穴・地倉穴に2寸3番（20号60ミリ）にて3ミリ刺入、置鍼10分を加えた。

第8回目（8月23日-28日目）：唇のピリピリ感が楽になったように思う。治療は、前回同様。

第9回目（8月27日-35日目）：本日は、左上顎第3歯歯茎の違和感。治療は、前回同様。

第11回目（9月10日-49日目）：左鼻翼のピリピリ感はなくなった。人中のピリピリ感も軽くなったように感じる。治療は、前回同様。

第12回目（9月19日-58日目）：全体的に重だるいように感じる。気圧の影響かもしれない。治療は、前回同様。

第15回目（10月4日-71日目）：口を右側に曲げると左鼻翼に違和感がある。治療は、前回同様。

第16回目（10月11日-78日目）：全体的に良好、ツッパリ感もかるくなっていると思う。治療は、前回同様。

第17回目（10月18日-85日目）：左上口唇と皮膚の境目がピリピリした感じが強い。治療は、前回同様。

第18回目（10月29日-96日目）：左上顎の歯と歯茎の境目が嫌な感じがある。治療は、前回同様。

第19回目（11月5日-105日目）：人中の左側が突っ張る感じと、左上顎第3歯の歯茎の違和感。治療は、前回同様。

第20回目（11月15日-115日目）：左上口唇と人中の左側に腫れているような感じがある。歯医者で麻酔をしているような感じがする。何ともいえない感覚である。前回同様の治療に加え、口唇に置鍼15分を行った。

第22回目（11月26日-126日目）：左口唇と頬の内側が腫れている感覚がある。治療は、前回同様。

第25回目（12月17日-130日目）：左口唇と鼻の下がしびれている感じがする。治療は、前回同様に加えて、太衝・三陰交に灸頭針を追加した。

第26回目（1月21日-165日目）：年末年始が忙しく、とても、疲れたためか、頬の違和感が強い。頬を触るだけで違和感がある。また、目を閉じたとき、ツッパリ感がでる。前回同様治療をおこなった。

第27回目（2月27日-213日目）：疲労がたまると、違和感がでる。鼻の下と左上口唇と皮膚の境目にシビレがある。前回同様に加えて、寸3-1番（16号40ミリ）にて、合谷-迎香に5mm刺入し、イオンパンピング。イオンパンピングの最中は、感覚的にとても良い。

考 察：本症例は、自転車転倒による頬骨陥没骨折術後後遺症と判断した。

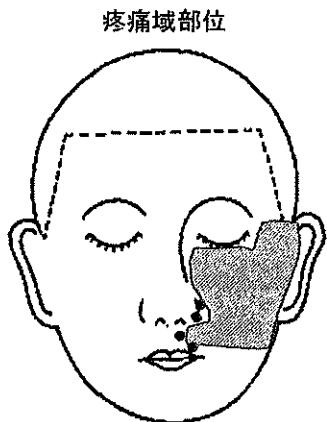
- ・自転車転倒による外傷であること
- ・上記に対して、術後の症状である

- ・転倒後、MRI 検査により、脳神経などに問題がないこと

尚、臨床症状、及び、診察所見から以下の疾患を除外した。

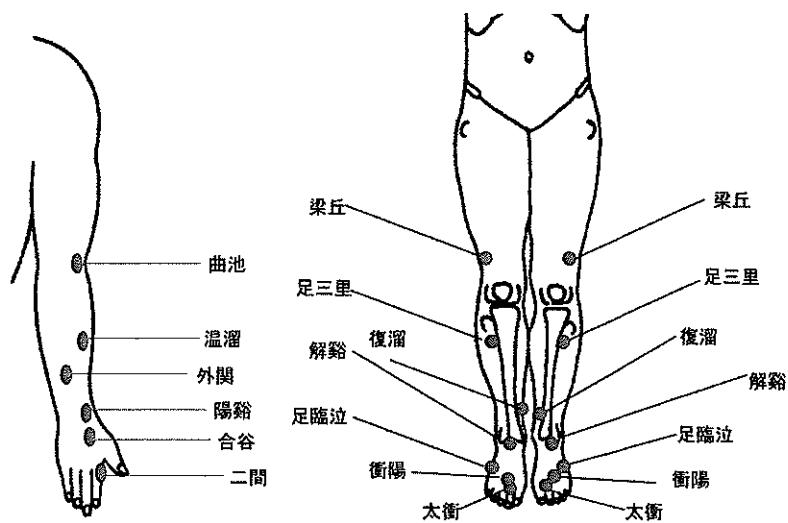
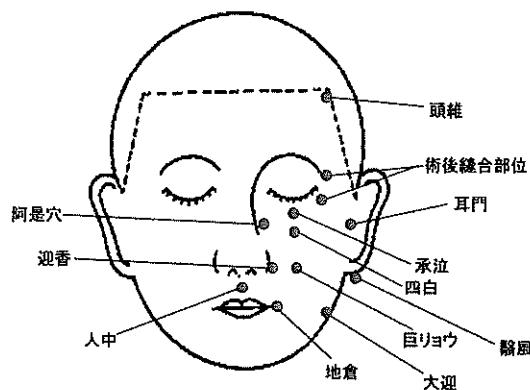
- ・顔面神経麻痺；顔面の左右差を比較、視診状態では、特に、左右差を感じない、静止時・額のしわ寄せ・軽くの閉眼・強くの閉眼・片目つぶり・鼻根のしわ寄せ・頬を膨らませる・イーと歯を見せる・口笛運動・口をへの字に曲げる、これらに関しては、左右差を認められないため。
- ・顔面痙攣；不隨運動が認められない。
- ・顔面チック；年齢的に考えにくい。両側性に痙攣がみとめられない。
- ・ベル麻痺；原因が外傷性であること。
- ・ハント症候群；ウィルスの感染が疑われない。耳孔に水泡がないため。

この症例に関しては、治療回数・日数のかかりすぎが問題であると感じている。鍼灸師としての私の知識・技術が低水準であると考えられるため、的確な治療を施せず質の高い治療を提供できなかつたことも考えられるのではないかと思う。臨床研究会では、先ず、問診に重点を置き、患者様の訴える主訴を多くても、3つまでと決めていいるのにもかかわらず、すべてに対応しようとしたことが大きな間違えだと大反省している。主訴は、今回のケースでは、三叉神経第二枝領域の術後後遺症であるが、この中のどれかをさらに、決めなくてはいけないと感じた。二頭追うものは一頭も得ずとは、まさに、のことであると実感した。



●は、ピリピリ感

## 治療点



## 参考文献

- 最新鍼灸治療学下巻 医道の日本 木下晴都 P. 29~39  
ベットサイドの神経の診かた 南山堂 田崎義明・斎藤佳雄 p. 114~1120